

平成30年 **7**月の大阪森林便り



今月の木の話

紫外線を吸収する木材は目にもいい

- ・愛知県医科大学が名古屋市内の中学校を対象に生徒の近視眼率を調査したところ、鉄筋コンクリート造学校の生徒の近視眼率が高く、木造校舎の生徒のそれは低いという結果。
 - ・人間の目を刺激し痛ませる紫外線を木材が吸収するのに対し、コンクリートは紫外線を跳ね返すからです。
 - ・木材は表面とともに内面からも光を反射します。仕上げカンナをかけた木材がソフトで美しく感じられるのはこのためで、木材の細胞の曲面からにじみ出る光沢です。
 - ・木材の光反射特性には表皮反射と層内反射があり、層内反射は拡散性で、光の当たる方向により反射の仕方が異なります。このため、木材は見る角度により色や光の具合が変わるのです。
- (日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



北米産丸太、値下がり 対日価格、2か月連続で

住宅着工の減少映す

- ・北米産丸太の日本向け輸出価格が2か月連続で下落。6月積み価格は5月積みと比べ2%下がりました。
 - ・日本の製材会社は採算が悪化しており値下げを要求。現地では天候に恵まれ、原木を搬出しやすくなったため集荷が進み、丸太の供給が増加。
 - ・新設住宅着工戸数は2017年7月から2018年3月まで9か月連続で前年実績を下回りました。
 - ・米松KD平角の卸価格は7か月連続で横ばい。集成材の値上がりも一服しています。
- (2018年6月19日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



国産材、ブランド根付け 産地、構造材や家具向け開発

輸出に力、「脱丸太」で収益

- ・日本の木材を高級品として国内外に売り込もうと、各産地がブランド化を推進。
- ・奈良県はインドネシアの富裕層に県産材を売り込みます。吉野地方の営林は室町時代に遡るとされています。
- ・2017年の輸出額は2016年比37%増の約326億円。過去5年間で3倍近くに増えました。このうち4割強が割安な丸太です。
- ・中国の建築基準法にあたる木構造設計規範の改正で、8月から柱や梁といった構造材に日本産の杉や桧が使えるようになります。
- ・宮崎県は飢肥（おび）杉で知られ、杉丸太生産量が2017年まで27年連続で全国トップ。
- ・韓国の木造住宅は北米産の木材を使った2 X 4工法がほとんど。宮崎県は県産材を多く使ってもらえる木造軸組み工法を提案しています。
- ・秋田県と東北森林管理局は、2016年度から一定の規格を満たした秋田杉の丸太を「あきたの極上品」としてブランド化。杉人工林は36万7千ヘクタールと全国一の規模。

森を守る「フォレスター」構想 紀伊半島、一元的に管理

- ・紀伊半島の森林資源を守り生かそうと、「フォレスター」を導入する構想が進みます。
- ・フォレスター：①林業の生産②防災③自然保護の観点に立った生物多様性④観光などレクリエーションを一元的に管理する専門職。
- ・「森林経営管理法」が成立し、2019年4月に施行。私有林の適切な管理を責務とし、高齢化などで手入れが難しい場合や所有者が分からない森林は市町村が管理を肩代わりするほか、他の林業経営者に貸し出ししやすくします。

(2018年6月4日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





木材利用でも環境配慮 F S C 認証

マック紙容器に採用

- ・森林保全を目的に木材の伐採や加工を適切にしたことを証明した「F S C 認証」を受けた木材利用が日本でも広がっています。
- ・F S C 認証の取得者数は増えています。2014年に1091件だった取得者数は、2017年に2割増の1299件に伸びました。
- ・全世界で認証林の面積は2012年の1億4900万ヘクタールから2018年には2億ヘクタールを超えました。世界の森林の約5%を占めています。
- ・F S C 認証の日本での認知度は18%と、ドイツや中国、英国の約70%と比べて低い水準。

※F S C 認証：国際機関である森林管理協議会（F S C、本部ドイツ）が環境に配慮した森林管理に対して発行する認証。森を守りながら資源を利用することを目指し1993年に発足。森林を管理する自治体や林業などが取得する「F M 認証」と、印刷会社など木材を加工したり売買する業者向けの「C o C 認証」があります。

(2018年6月22日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



醸造木桶用の杉材増産

吉野中央木材、酒・しょうゆ用 販路開拓 SNSでも

- ・製材業の吉野中央木材（奈良県吉野町）は日本酒の醸造などに使う木桶用の杉材を増産。
- ・吉野地域では室町時代から造林が行われ、城郭建築のほか輸送用の樽や桶向けに需要が拡大。酒などがしみださないよう節がなく、年輪幅を狭く均一にする育林技術が培われてきました。
- ・杉材価格は1990年をピークに下落傾向。
- ・同社は樹齢100～150年程度の原木の内、水分を通しにくい部分のみを伐りだし部材として販売します。

(2018年6月23日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





カナダ産製材 最高値 日本住宅向け 1年で4割高

需要家、値上げ受け入れ

- ・ ツーバイフォー（2 x 4）住宅に使うカナダ産製材品の日本向け価格が最高値を更新。1年前より4割以上高くなっています。
- ・ 産地の洪水で原木の供給が滞っています。米国ではカナダ産への関税導入と好調な住宅投資が重なり、製材品価格が高騰しています。
- ・ S P F 製材品の7～9月期のカナダ西部内陸産価格は、日本向け規格で前四半期に比べ9%上昇。前年同期比では41%高くなっています。

※S P F：スプルース（トウヒ）、パイン（マツ）、ファー（モミ）の3種類の亜寒帯針葉樹林の総称。主に米国やカナダが原産地。2 x 4住宅や家具、ウッドデッキに用いられる。

（2018年6月28日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

